

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500011
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	伊予郡松前町西高柳267-1
自己評価作成日	平成23年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にもあるように、怒らない・焦らない・諦めないを常に念頭に置き、利用者様に安心して生活していただけるよう心がけている。
 質の良い暖かい笑いを大切にし、利用者様の笑顔がみられるよう支援している。
 利用者様の出来ることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、出来ることは自分で又は一緒に行うようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の年齢やキャリアに幅のあることがよい刺激となり、利用者の日常生活は活性化されている。また、管理者の利用者への医療的配慮は、ゆったりとした生活を水面下で支え、家族の高い安心感となっている。開設から5年目を迎え、管理者は更なるケアの質の向上と福祉資源としての地域貢献を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	ひなたぼっこ
(ユニット名)	あおい
記入者(管理者)	
氏名	松田 加代子
評価完了日	23年 6月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 独自の理念をつくり、眼につくところに掲示している。事あるごとに理念の確認をしている。地域密着型としての意識は低いかもしれない。	
			(外部評価) 地域密着型サービスを意識した理念を開設時から掲げている。利用者が玄関先で職員と一緒に懐メロを歌う姿を近隣者が笑顔で見ながら通り過ぎる光景は、理念の実践が表れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員としてというのは難しいが、なるべく地域の方とのつながりが持てるよう行事に参加している。日常的に散歩の際は近所の方に挨拶や会話が出来るよう努めている。	
			(外部評価) 地域住民が運営推進会議に積極的に参加しており、ホームは地域の一員となっている。今後は福祉資源として地域貢献することを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事に参加した時など職員の介助する姿を地域の方に見ていただくことが、認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議ではホームの様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上に活かせるよう心がけている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、参加者から利用者のサービスの質に関する積極的な意見が多く出されている。会議の前には利用者と委員がふれあう時間をとっており、利用者本位の会議になるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 町職員の方とは連絡は取り合っているが、ケアサービスに関することについては今後話し合いをしていく予定。	
			(外部評価) 管理者は町担当者と連携を密にとり、サービスの質についても話し合い、ホームの運営において協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について理解はできているが、利用者様の安全確保のためご家族了解のもとベッド柵などによる拘束を行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束に関して指定基準を理解したうえで、利用者の生活支援にあたっている。安全と拘束の狭間で判断に困る場合は、まずは利用者側に立って考え、その上で管理者と家族を交えて話し合いを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法について学ぶ機会を持っていない。虐待とは言わないが、不適切な対応が見過ごされがちである。もっと深く認識し注意していく必要がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 難しい問題であり、学ぶ機会も持てていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際に十分行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見ご要望については運営推進会議で発表するようにしている。運営に反映するまでには至っていない。	
			(外部評価) 家族等への連絡や調整は管理者が担当している。その際に、意見や要望を確認しホームの運営に反映させている。管理者と家族とは信頼関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 意見を聞く機会には設けているが反映させるまでには至っていない。</p> <p>(外部評価) 管理者は不定期ではあるが介護の現場に入っているため、職員とは話し合いが行われている。職員の年齢や経験幅が大きく男性職員も多いことから、個別の話し合いを重視している。各職員からの意見は、ケア会議で集約することに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 努力している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修は勤務扱いとし、なるべく多くの研修に参加できるよう努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 代表者が機会を作ることはないが、機会があれば参加できるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) この一年でサービスを開始された方はいないが、努めてきた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) この一年でサービスを開始された方はいないが、努めてきた。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) この一年でサービスを開始された方はいないが、努めてきた。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護度が上がるにつれ難しくなっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 極力ご家族様には情報を提供し負担にならない程度に協力を得ることで、家族の絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 月に一度教会に行ったり、ドライブで住んでいたところを通ったりしている。 (外部評価) ホームでの生活が長くなっている利用者が多く、ホームのある地区に馴染みの人間関係が構築されている。その関係を大切にするために、地区行事や催しものには積極的に参加している。比較的新しい利用者には、外出の際に馴染みの場所に立ち寄りなどが行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関わりは難しいがなるべくできるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) この一年でサービスを終了された方はいないが必要に応じて支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の意向の把握は認知症があり困難。想像を働かせ本人本位になるべく努めているが、職員の都合が入りがち。 (外部評価) ホームでの生活が長い利用者や職員間には意思疎通が自然に取れており、思いや意向がしっかり把握されている。職員間で利用者の生活歴や趣向等の情報提供に努めているが、口頭での伝達が多いため情報共有が難しい。	口頭での情報伝達は曖昧になりやすいため、利用者の生活歴等の大切な情報は記録することが望ましい。その際、経過記録の様式では新しい情報に過去情報が埋もれてしまい記録の確認が難しいため、加筆できるような様式を用いて記録し職員間で統一された利用者情報の共有が図られることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 把握できるよう努めているが、困難なところがある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 現状については概ね把握できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が作成し、カンファレンスで話し合いをして修正している。	
			(外部評価) 介護計画の作成を担当制にしているため担当する利用者の状況や課題が熟知でき、それに対する職員の意見が反映しやすい仕組みになっている。介護計画の見直しはモニタリングが重要であるが、経過記録には介護計画に沿った記載事項が少ない。	介護計画の目標や課題を絞り目標達成度を数値化したり、評価基準を明確にする等の工夫を行うことで、介護計画を意識した経過記録ができると思われる。介護計画や経過記録の記載方法の見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は不十分であり見直しに活かすに至っていない。情報は申し送りでも共有できている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じてケアの修正をおこなっている。事業所の多機能化は困難。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアさんの協力を得て行事参加。又はホームの行事に参加していただいている。地域の方に教会へ同伴していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族本人の希望に添ってかかりつけ医を決定してお り適切な医療が受けられている。 (外部評価) 看護師である管理者が医療との窓口となり利用者ご とのかかりつけ医や専門医、運営者である医療機関との 連携を行っている。家族への連絡や調整も管理者が 担っており、利用者や家族は安心して生活が送られてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 情報交換、伝達ができており早期の対応がとれてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力病院や個人の病院に関しては関係づくりができる が大きな病院になると困難。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者がご家族と相談し、結果を職員に伝達してい る。チームでの支援とまではいかないかもしれない が、統一した対応ができるよう努めている。 (外部評価) 管理者は、福祉施設での医療的ケアの限界を承知して いるため、終末期の方針をしっかりと立てている。そ れが、利用者のQOLを守るためには必要との信念が ある。その信念で医療機関との調整が行われており、 家族との話し合いも段階を踏みながら、丁寧に行われ ている。	医療面の諸問題は、管理者が全面的に担っているため 職員は安心して業務を行っている反面、終末期に対す る漠然とした不安感がある。終末期ケアについては会 議の中で説明されているが、職員間で膝を突き合わせ た話し合いが行われることを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修には積極的に参加している。実践はしていないのでなんとも言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の自主防災会の方々と話し合いをし、協力を要請している。合同の避難訓練を計画している。 (外部評価) 管理者は日常的に防災を意識しており地域との協働が必要と考えている。そのため、災害対策をホーム内だけで留めず、地域の自主防災会との合同訓練を行う等、地域と連携するよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 概ねできているが、不適切な言葉かけが聞こえることがある。 (外部評価) 職員の個性から利用者への声かけは異なるが、どの職員にも年長者への尊厳が感じられる。「ちょっとまってね」という言葉を極力使わないケアに力を入れており、利用者の意向を尊重した取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人が言葉に出来る話しかけをするよう心がけているが、ご自身で表したり自己決定されたりするのは難しい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべくそのように努めているが、入浴など職員の都合で曜日を決めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服の選定など職員が行うことが多い。洗面・整髪の手支援が十分とはいえない。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る限り一緒に作業できるよう努めている。個々の摂食能力に応じて形状を工夫している。	
			(外部評価) 年齢や介護度が高くなってきており、利用者自身が準備や片付けに関わることは難しくなっている。食事の前後はテーブルで利用者と職員と一緒に共有の時間を過ごしている。職員が作る食事には旬の食材が使われ季節が感じられるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食能力に応じた食事の提供をしている。血糖値が上昇した方が食事療法にてかなり改善された実績がある。水分摂取が少ない方への支援について今後改善する必要有り。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの実践を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自立に向けた支援を行ってはいるが、ADLの低下と共に自立～介助の流れのほうが多く見られる。	
			(外部評価) 職員は「失禁は職員のミス」であると考えている。できるだけトイレで排泄ができるよう目標を掲げ、職員は利用者の排泄パターンを把握し必要に応じてさりげないトイレ誘導を行っている。ゆったりとした職員の関わりは、利用者の尊厳が守られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便についてプランが必要な方は介護計画に取り入れて支援している。日常的に野菜を多く使用しているので予防はできている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴については概ね2日に1度だが、職員の都合で特浴については曜日を決めている。時間帯については職員の勤務体制上決めざるを得ない。	
			(外部評価) 開設当初から特殊浴槽を設置しており、利用者の状態の変化に合わせて入浴を安楽に行えるよう支援に取り組んでいる。入浴時には利用者とは色々な話ができて楽しいという職員の言葉からも心地よい入浴支援が行われていることが分かる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じて居室に誘導して休んでいただいたり、リビングで休んでいただいたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬防止のために声出し確認を行っているが、薬に関する理解については職員間で格差があり今後の課題である。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の出来ること・好きな事を把握し、適宜提供できている。 月に1度外食か喫茶店に行くようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に添うことは難しいが、なるべく戸外に出れるよう支援している。 この1年はなかったが地域のボランティアさんによる外出支援の体制はできている。	
			(外部評価) 近場の慣れた場所への外出を増やすことで、利用者の外気浴の機会を増やしている。広い玄関先にいすを置いていることも、季節の風や自然光を利用者に感じてほしいというホームの意向である。運営推進会議でも地域の方々と話し合っており、利用者の要望に少しでもこたえることができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理は職員が行っており、利用者様が使用することは現在ない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやりとりはできていないが、職員を介して電話で話したりはしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾ったり、壁面飾りをしたり工夫している。</p> <p>(外部評価) 共用空間が殺風景にならないように、季節感のある飾り付けをしたり、行事の時の写真を飾ったり賑やかである。共用空間は心地のよい生活感があり、馴染みやすい空間になっている。開設後5年を経過しているが掃除や手入れが行き届いており、清潔感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにはそれぞれの決まった場所ができている。狭いのでお互い譲り合っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) なるべく居心地が良いように努めているが、収集作業をされる方は枕元に山積みであり本人にとっての居心地の良さを考えるところである。</p> <p>(外部評価) ホームでの生活が長い利用者が多く、個性豊かな部屋が多い。利用者が混乱しないよう専門的な観点から家具の配置やインテリアを規定し、利用者の生活を守るよう努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自由に行き来ができるようリビングの戸は施錠せず風鈴をつけ、出入りがわかるようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500011
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	伊予郡松前町西高柳2657-1
自己評価作成日	平成23年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にもあるように、怒らない・焦らない・諦めないを常に念頭に置き、利用者様に安心して生活していただけるよう心がけている。
質の良い暖かい笑いを大切にし、利用者様の笑顔がみられるよう支援している。
利用者様の出来ることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、出来ることは自分で又は一緒に行うようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の年齢やキャリアに幅のあることがよい刺激となり、利用者の日常生活は活性化されている。また、管理者の利用者への医療的配慮は、ゆったりとした生活を水面下で支え、家族の高い安心感となっている。開設から5年目を迎え、管理者は更なるケアの質の向上と福祉資源としての地域貢献を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ひなたぼっこ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)
氏名 松田 加代子

評価完了日 23年 6月 8日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 独自の理念をつくり、目につくところに掲示している。事あるごとに理念の確認をしている。地域密着型としての意識は低いかもしれない。	
			(外部評価) 地域密着型サービスを意識した理念を開設時から掲げている。利用者が玄関先で職員と一緒に懐メロを歌う姿を近隣者が笑顔で見ながら通り過ぎる光景は、理念の実践が表れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の一員としてというのは難しいが、なるべく地域の方とのつながりが持てるよう行事に参加している。日常的に散歩の際は近所の方に挨拶や会話が出来るよう努めている。	
			(外部評価) 地域住民が運営推進会議に積極的に参加しており、ホームは地域の一員となっている。今後は福祉資源として地域貢献することを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事に参加した時など職員の介助する姿を地域の方に見ていただくことが、認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議ではホームの様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上に活かせるよう心がけている。	
			(外部評価) 運営推進会議では、参加者から利用者のサービスの質に関する積極的な意見が多く出されている。会議の前には利用者と委員がふれあう時間をとっており、利用者本位の会議になるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 町職員の方とは連絡は取り合っているが、ケアサービスに関することについては今後話し合いをしていく予定。	
			(外部評価) 管理者は町担当者と連携を密にとり、サービスの質についても話し合い、ホームの運営において協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について理解はできているが、利用者様の安全確保のためご家族了解のもとベッド柵などによる拘束を行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束に関して指定基準を理解したうえで、利用者の生活支援にあたっている。安全と拘束の狭間で判断に困る場合は、まずは利用者側に立って考え、その上で管理者と家族を交えて話し合いを行うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法について学ぶ機会を持っていない。不適切な言葉がけが聞こえることがあり、認識を深める必要がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 難しい問題であり、学ぶ機会も持てていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際に十分行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見ご要望については運営推進会議で発表するようにしている。運営に反映するまでには至っていない。 (外部評価) 家族等への連絡や調整は管理者が担当している。その際に、意見や要望を確認しホームの運営に反映させている。管理者と家族とは信頼関係が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見を聞く機会は設けているが反映させるまでには至っていない。 (外部評価) 管理者は不定期ではあるが介護の現場に入っているため、職員とは話し合いが行われている。職員の年齢や経験幅が大きく男性職員も多いことから、個別の話し合いを重視している。各職員からの意見は、ケア会議で集約することに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は勤務扱いとし、なるべく多くの研修に参加できるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が機会を作ることはないが、機会があれば参加できるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) この一年でサービスを開始された方はいないが、努めてきた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) この一年でサービスを開始された方はいないが、努めてきた。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) この一年でサービスを開始された方はいないが、努めてきた。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に暮らす一人として考え良い関係が築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 極力ご家族様には情報を提供し負担にならない程度に協力を得ることで、家族の絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様任せになっている。訪問があった際は居室でゆっくりできるよう支援している。 (外部評価) ホームでの生活が長くなっている利用者が多く、ホームのある地区に馴染みの人間関係が構築されている。その関係を大切にするために、地区行事や催しものには積極的に参加している。比較的新しい利用者には、外出の際に馴染みの場所に立ち寄りなどが行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) なるべく利用者様同士の関わりが持てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) この一年でサービスを終了された方はいないが必要に応じて支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) それぞれの希望が把握できるよう努めている。また、それに添えるよう努めている。 (外部評価) ホームでの生活が長い利用者や職員間には意思疎通が自然に取れており、思いや意向がしっかり把握されている。職員間で利用者の生活歴や趣向等の情報提供に努めているが、口頭での伝達が多いため情報共有が難しい。	口頭での情報伝達は曖昧になりやすいため、利用者の生活歴等の大切な情報は記録することが望ましい。その際、経過記録の様式では新しい情報に過去情報が埋もれてしまい記録の確認が難しいため、加筆できるような様式を用いて記録し職員間で統一された利用者情報の共有が図られることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 把握できるよう努めているが、困難なところがある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 現状については概ね把握できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が作成し、カンファレンスで話し合いをして修正している。	
			(外部評価) 介護計画の作成を担当制にしているため担当する利用者の状況や課題が熟知でき、それに対する職員の意見が反映しやすい仕組みになっている。介護計画の見直しはモニタリングが重要であるが、経過記録には介護計画に沿った記載事項が少ない。	介護計画の目標や課題を絞り目標達成度を数値化したり、評価基準を明確にする等の工夫を行うことで、介護計画を意識した経過記録ができると思われる。介護計画や経過記録の記載方法の見直しを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は不十分であり見直しに活かすに至っていない。情報は申し送りで共有できている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じてケアの修正をおこなっている。事業所の多機能化は困難。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアさんの協力を得て行事参加。又はホームの行事に参加していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご家族本人の希望に添ってかかりつけ医を決定してお り適切な医療が受けられている。 (外部評価) 看護師である管理者が医療との窓口となり利用者ご とのかかりつけ医や専門医、運営者である医療機関との 連携を行っている。家族への連絡や調整も管理者が 担っており、利用者や家族は安心して生活が送られてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 情報交換、伝達ができており早期の対応がとれてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力病院や個人の病院に関しては関係づくりができる が大きな病院になると困難。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者がご家族と相談し、結果を職員に伝達してい る。チームでの支援とまではいかないかもしれない が、統一した対応ができるよう努めている。 (外部評価) 管理者は、福祉施設での医療的ケアの限界を承知して いるため、終末期の方針をしっかりと立てている。そ れが、利用者のQOLを守るためには必要との信念が ある。その信念で医療機関との調整が行われており、 家族との話し合いも段階を踏みながら、丁寧に行われ ている。	医療面の諸問題は、管理者が全面的に担っているため 職員は安心して業務を行っている反面、終末期に対す る漠然とした不安感がある。終末期ケアについては会 議の中で説明されているが、職員間で膝を突き合わせ た話し合いが行われることを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修には積極的に参加している。実践はしていないのでなんとも言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の自主防災会の方々と話し合いをし、協力を要請している。合同の避難訓練を計画している。 (外部評価) 管理者は日常的に防災を意識しており地域との協働が必要と考えている。そのため、災害対策をホーム内だけで留めず、地域の自主防災会との合同訓練を行う等、地域と連携するよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 概ねできているが、不適切な言葉かけが聞こえることがある。 (外部評価) 職員の個性から利用者への声かけは異なるが、どの職員にも年長者への尊厳が感じられる。「ちょっとまってね」という言葉を極力使わないケアに力を入れており、利用者の意向を尊重した取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分の言葉で答えたり、自己決定ができるような話しかけを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースを優先するよう努めているが、全員の希望に添うことは困難である。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服の選定など職員が行うことが多い。洗面・整髪 of 支援が十分とはいえない。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る限り一緒に作業できるよう努めている。個々の摂食能力に応じて形状を工夫している。	
			(外部評価) 年齢や介護度が高くなってきており、利用者自身が準備や片付けに関わることは難しくなっている。食事の前後はテーブルで利用者と職員が一緒に共有の時間を過ごしている。職員が作る食事には旬の食材が使われ季節が感じられるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の摂食能力や好みに応じて食事の形態を工夫し、食器の選定もしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの実践を行っている。 拒否がある方は状況に応じて行っている。 習慣的に朝しかされない方には無理強いはしていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々のパターンを把握しなるべくトイレで排泄できるような支援を行っている。	
			(外部評価) 職員は「失禁は職員のミス」であると考えている。できるだけトイレで排泄ができるよう目標を掲げ、職員は利用者の排泄パターンを把握し必要に応じてさりげないトイレ誘導を行っている。ゆったりとした職員の関わりは、利用者の尊厳が守られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便についてプランが必要な方は介護計画に取り入れて支援している。日常的に野菜を多く使用しているので予防はできている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様のタイミングに合わせて入浴していただいている。職員の勤務体制上夜間の入浴はできない。	
			(外部評価) 開設当初から特殊浴槽を設置しており、利用者の状態の変化に合わせて入浴を安楽に行えるよう支援に取り組んでいる。入浴時には利用者とは色々な話ができて楽しいという職員の言葉からも心地よい入浴支援が行われていることが分かる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じて居室に誘導して休んでいただいたり、リビングで休んでいただいたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬防止のために声出し確認を行っているが、薬に関する理解については職員間で格差があり今後の課題である。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の出来ること・好きな事を把握し、適宜提供できている。 月に1度外食か喫茶店に行くようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に添うことは難しいが、なるべく戸外に出れるよう支援している。 この1年はなかったが地域のボランティアさんによる外出支援の体制はできている。	
			(外部評価) 近場の慣れた場所への外出を増やすことで、利用者の外気浴の機会を増やしている。広い玄関先にいすを置いていることも、季節の風や自然光を利用者に感じてほしいというホームの意向である。運営推進会議でも地域の方々と話し合っており、利用者の要望に少しでもこたえることができるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理は職員が行っており、利用者様が使用することは現在のない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやり取りはできていないが、職員を介して電話で話したりはしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、壁面飾りをしたり工夫している。	
			(外部評価) 共用空間が殺風景にならないように、季節感のある飾り付けをしたり、行事の時の写真を飾ったり賑やかである。共用空間は心地のよい生活感があり、馴染みやすい空間になっている。開設後5年を経過しているが掃除や手入れが行き届いており、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングが狭いので、廊下に一人がけのソファを置いたり、場合によっては相談室でくつろいでいたり戸外のベンチを利用したりして工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に馴染みのものを持ってきていただいている。利用者様によっては飾りなどができないこともある。	
			(外部評価) ホームでの生活が長い利用者が多く、個性豊かな部屋が多い。利用者が混乱しないよう専門的な観点から家具の配置やインテリアを規定し、利用者の生活を守るよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレにはそれとわかるような張り紙をしている。廊下には手すりがあり、一人で歩けるようになっている。	